

JVC

ウォールシステムアンプ

型名 **PA-K30-08**
PA-K30-16

取扱設置説明書

お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱設置説明書」をお読みのうえ、
正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全に
お使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、
必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は
本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造
番号と保証書に記載されている製造番号が一致してい
るかお確かめください。



このたびはウォールシステムアンプ

PA-K30-08/PA-K30-16を

お買いあげいただき

ありがとうございます。

このアンプは非常用放送設備としては使用できませんので、ご注意ください。

特長

■ 省スペースのための壁掛型アンプで、160W(PA-K30-16)/80W(PA-K30-08)のハイパワー設計。

■ 簡単な操作で放送できるように次の技術を採用。

- ワンタッチアナウンス放送 ●非常時遮断回路
- 呼び出し放送優先回路 ●入力選択スイッチ方式
- 電話ページング回路

■ 呼び出し放送に便利なアナウンスマイクを付属搭載。

■ マイク入力(入力1～3)は電子平衡入力を採用。

マイクコードを長くできます。

■ 放送の前後の合図に2音チャイム内蔵。

■ 別売りのラジオチューナーが組込み可能。

もくじ

安全上の注意	3
各部の名称とはたらき	4～5
操作のしかた	6
ブロックダイアグラム	7
設置のしかた	8
内部の説明と接続のしかた	9
・ 接続端子盤の説明	9
・ スピーカ回線の接続	10
・ W. チャイムの接続	10
・ 一斉式リモートマイクロホンの接続	10
・ 5 回線リモートマイクロホンの接続	10
・ 電話用ページングアンプとして使用する場合の接続	11
・ 非常用放送システムとの接続	11
仕様	裏表紙
保証とアフターサービスについて	裏表紙

安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や、財産の損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



⚠ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることをお知らせするものです。図の中や近傍に具体的な注意内容が示されています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が示されています。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするときは、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切る。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですからおやめください。



電源プラグをコンセントから抜くこと

警告

- 本機を壁面に取り付ける際には、機器の重量に十分耐えられる強度を持った場所に取り付ける。化粧合板、石膏ボード、プラスターボード等、材質に強度が足りない場合は、補強材（ベニヤ合板等）を当てて補強する。補強が不十分な場合は、落下し、けがをすることがあります。
- 取り付けねじやナットで締め付ける場合は、確実に締め付ける。締め付けが不確実だと落下する恐れがあります。
- この機器を分解・改造しない。火災・感電の原因となります。
- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは外さない。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器の上面、前面の通風孔をふさがない。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 通風孔からクリップ等の異物を挿入したり、水等の液体をこぼさない。内部回路がショートし火災の原因になることがあります。
- 本機は日本国内専用です。必ず商用電源AC100V 50Hz/60Hzでご使用ください。



分解禁止



注意

- 湿気が多い場所または油煙や湯気が当る場所、ほこりの多い場所は避けてください。故障の原因となります。



ご使用上のご注意

電源を入れてから2～3秒間は音が出ませんが、これはミュート動作のためで、故障ではありません。

■ボディーのお手入れのご注意

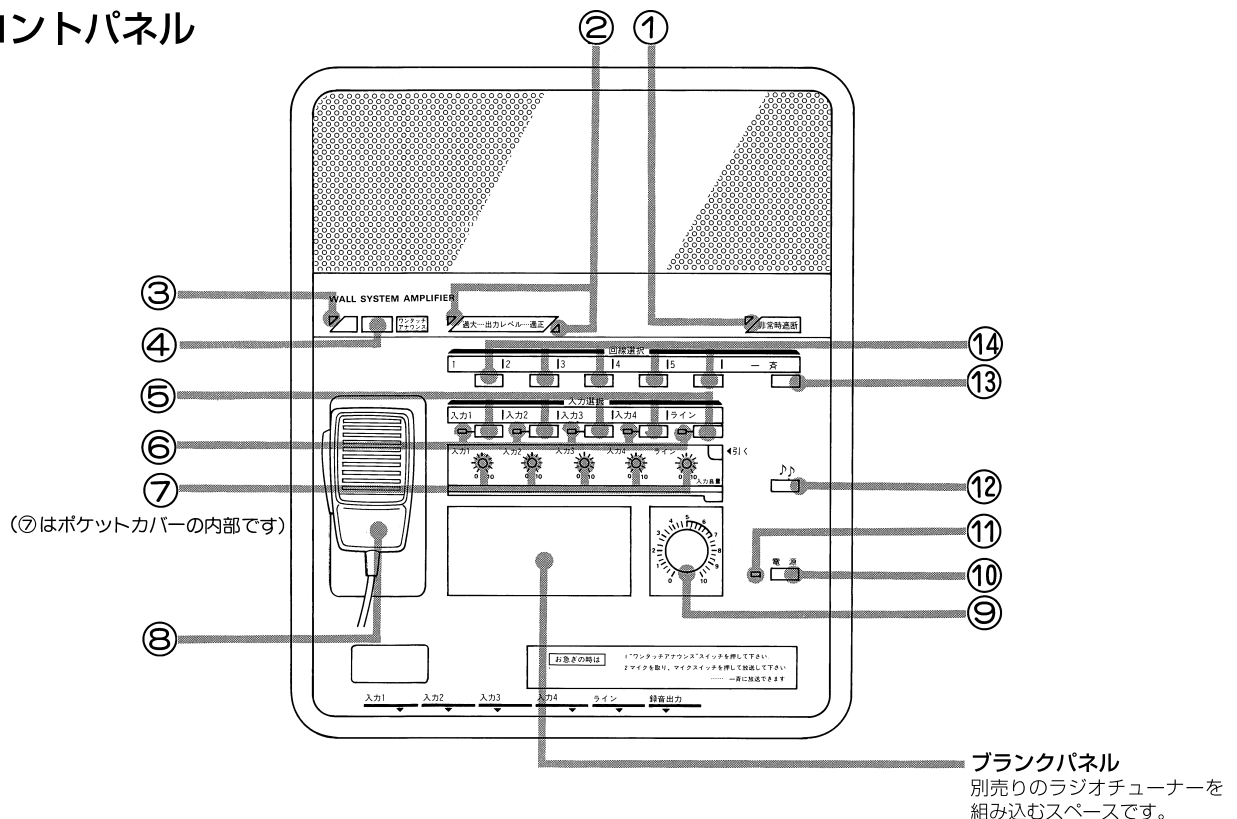
キャビネットが汚れたら家具住宅用洗剤などで汚れを落とし、乾いた布でふきとります。シンナーやベンジン、殺虫剤など揮発性のものをかけたり、またゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。プラスチックの中に含まれる可塑剤（かそざい）の働きにより変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■マイクをご使用になる場合

- アンバランス（不平衡）タイプのマイクを5m以上延長するとハム雑音（ブーンという音）や調光ノイズなどの影響を受けやすくなります。
- マイクケーブルを延長する必要がある場合、バランス（平衡）タイプのマイクをご使用ください。詳しくはマイクの取扱説明書をご参照ください。

各部の名称とはたらき

■フロントパネル



- ① 非常遮断ランプ(赤)**

非常用放送設備と併用して使用するとき、非常用放送設備が動作したとき、このランプが点灯し、本機からの放送はできなくなります。(消防法に定められています。)
- ② 出力レベル表示ランプ(赤、緑)**

音量の大きさにより緑(適正)と赤(過大)のランプが点灯します。通常、赤のランプが時々点灯する程度の音量になるよう⑦または⑨のつまみを調節します。
- ③ ワンタッチアナウンス表示ランプ(赤)**

ワンタッチアナウンススイッチ④を“ON”にすると点灯します。
- ④ ワンタッチアナウンススイッチ**

電源スイッチ⑩の“ON”“OFF”に関係なくこのスイッチを“ON”にすると、アナウンスマイクの一齐放送ができます。急いで一齐放送したいとき使用します。
- ⑤ 入力選択スイッチ**

パネル底面の入力に対応して選択してください。このスイッチを押すと“ON”になり⑥の入力選択ランプ(緑)が点灯し、その系統の音声を送り出されます。使用しない系統は“OFF”にします。
- ⑥ 入力選択ランプ(緑)**

入力選択スイッチ⑤が“ON”のときに点灯します。
- ⑦ 入力音量調節つまみ(ポケット内部)**

パネル底面の入力に対応した音量調節つまみを調節します。
- ⑧ アナウンスマイク**

アナウンス専用マイクです。トークスイッチ付でこのスイッチを押してアナウンス放送をします。主音量つまみに関係なくアナウンス放送できます。
- ⑨ 主音量調節つまみ**

パネル底面の各入力音量をまとめて調節します。
- ⑩ 電源スイッチ**

本機で放送するとき、このスイッチを押し、電源“ON”にしてください。このスイッチを押しますと、電源表示ランプ⑪が点灯します。
- ⑪ 電源表示ランプ(赤)**

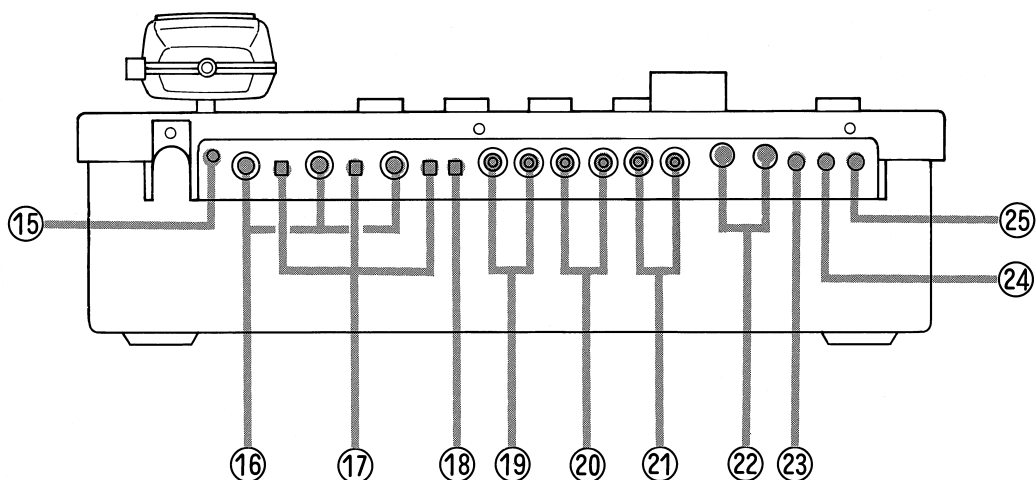
電源スイッチ“ON”で点灯します。また、ワンタッチアナウンススイッチ④を押したときや、リモコンマイク等外部から本機を使用する時も点灯します。
- ⑫ チャイムスイッチ**

このスイッチを押すと、2音チャイムを放送することができます。
- ⑬ 一齐スイッチ(ON OFF)**

このスイッチを“ON”にすると⑭の回線選択スイッチの“ON”“OFF”に関係なく5つの回線に一齐放送ができます。
- ⑭ 回線選択スイッチ(ON OFF)**

スピーカー回線の中から放送したい回線を選択できます。スイッチ“ON”でその回線に放送できます。

■底面パネル



⑮ アナウンスマイク音量調節ボリューム

アナウンスマイクの音量を調節します。

⑯ 入力1～3用ジャック

マイク、BGM機などの音声入力信号をφ6.3標準フォノジャックで接続します。マイク使用時は⑰のスイッチを“OFF”にします。

ライン入力使用時は⑰のスイッチを“ON”にします。

⑰ 入力レベル切換スイッチ(ON OFF)

⑯の入力レベルの切換ができます。接続される入力レベルの切換をこのスイッチで行います。

“ON”でライン(-10dBs)、“OFF”でマイク入力(-60dBs)になります。

⑱ 入力4レベル切換スイッチ(フォノ、ライン) (ON OFF)

⑱の入力レベルの切換ができます。入力レベルの切換をこのスイッチで行います。

“ON”でライン(-10dBs)、“OFF”でフォノ入力(-54dBs)になります。

⑲ 入力4(ピンジャックL, R)

レコードプレーヤ、カセットデッキ等の音声信号L, Rをピンプラグで接続します。

フォノ入力時は⑱のスイッチを“OFF”にします。

ライン入力時は⑱のスイッチを“ON”にします。

レコードプレーヤ接続時はレコードプレーヤのアース線をピンジャックの間のネジに接続します。

⑳ ライン入力(ピンジャックL, R)

ライン入力として使用します。出力レベルが-10dBsの機器に適合し、ピンプラグで接続します。

㉑ 録音出力(ピンジャックL, R)

カセットデッキ等をピンプラグで接続します。なお、録音される入力は入力1～4とライン入力のみです。

【別売りのラジオチューナーが組込まれる場合はラジオも録音されます。1台のカセットデッキで録音再生をする場合、そのデッキの接続されたライン入力(または入力1～4)の入力選択スイッチは“OFF”にします。】

㉒ 音質調節つまみ(左：低音、右：高音)

音質の低音と高音が独立して調節できます。各つまみを中央にセットすると標準的な音となり、左(∩)に回すと弱くなり、右(∪)に回すと強調されます。

㉓ ウエストミンスターチャイム音量調節ボリューム

㉔ リモコンマイク音量調節ボリューム

ウエストミンスターチャイムや、リモコンマイクを使用するときの音量調節に使用します。

㉕ ミューティングレベル調節ボリューム

アナウンスマイク、ウエストミンスターチャイム、リモコンマイク、2音チャイムの音が入力されると、入力1～4、ライン、ラジオの音量が自動的に小さくなります(呼出優先)。ミューティングボリュームは右(∪)に回すほどその効果が大きくなります。

操作のしかた

調節のしかた

必要な機器の接続が終了したら、電源スイッチを“ON”にし、調節を行います。
(つまみおよびスイッチのはたらきは4～5ページをご参照してください。)

●底面のジャックに接続された機器のレベル調節の場合

1. 主音量調節つまみ⑨を目盛“7”ぐらいに合わせます。
2. パネルのポケットカバーを開けて、入力音量調節つまみ⑦を左(←)いっぱいに絞ります。
3. 必要な回線選択スイッチ⑭を“ON”にします。
4. 入力レベル切換スイッチ⑰、入力4レベル切換スイッチ⑱を入力レベルにあわせます。
(入力レベルについては5ページ⑰、⑱の頁をご参照してください。)
5. 該当する機器を再生状態にします。
マイクの場合、マイクテストをしながら6.以降の調節を行います。
6. 入力選択スイッチ⑤を“ON”にし、入力音量調節つまみ⑦を徐々に上げます。
出力レベル表示ランプ②(赤色)が時々点灯する位置が適正な音量になります。
7. 接続された機器の音量が一定にそろったことを確認して、パネルのポケットカバーを閉じます。
(通常、入力音量調節つまみは動かさずに、入力選択スイッチと主音量調節つまみで入力の選択と音量を調節するのが便利です。)

●アナウンスマイクの場合

1. アナウンスマイク⑧のトークスイッチを押し、マイクテストをしながらアナウンスマイク音量調節ボリューム⑲をノブドライバー等で徐々に上げます。
2. 出力レベル表示ランプ②(赤色)が時々点灯する位置が適正な音量です。
アナウンスマイクの音量は主音量調節つまみの位置に関係ありませんので、本機の設置時に設定します。

操作のしかた

電源スイッチを“ON”にします。
(つまみおよびスイッチのはたらきは4～5ページをご参照してください。)

●底面のジャックに接続された機器の場合

1. 主音量調節つまみ⑨を左(←)いっぱいに絞ります。
2. 放送したい回線と入力機器を回線選択スイッチ⑭と入力選択スイッチ⑤で選びます。
3. 該当する機器を再生状態にして主音量調節つまみを徐々に上げます。

●アナウンスマイクの場合

1. 放送したい回線を回線選択スイッチ⑭で選びます。
(一斉放送したい場合、一斉スイッチ⑬を押します。)
2. アナウンスマイク⑧のトークスイッチを押しして放送します。
(必要に応じてチャイムスイッチ⑫を押します。)

●ワンタッチアナウンス放送をする場合 (一斉放送になります。)

電源スイッチは“ON”でも“OFF”でも関係ありません。

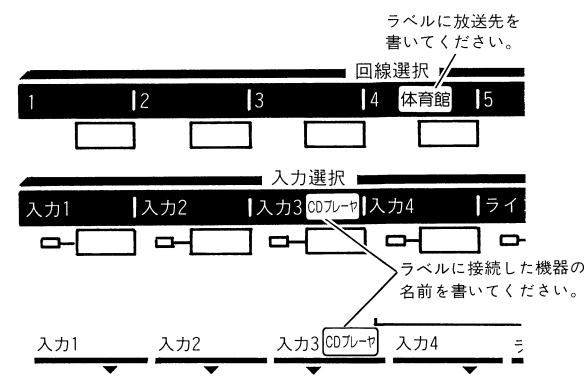
1. ワンタッチアナウンススイッチ③を“ON”にします。
2. アナウンスマイク⑧のトークスイッチを押しして放送します。
(ワンタッチアナウンス放送時にミュートレベル調節ボリューム⑳が最大になっていると、入力1～4、ライン入力の音は放送されません。)

ご注意

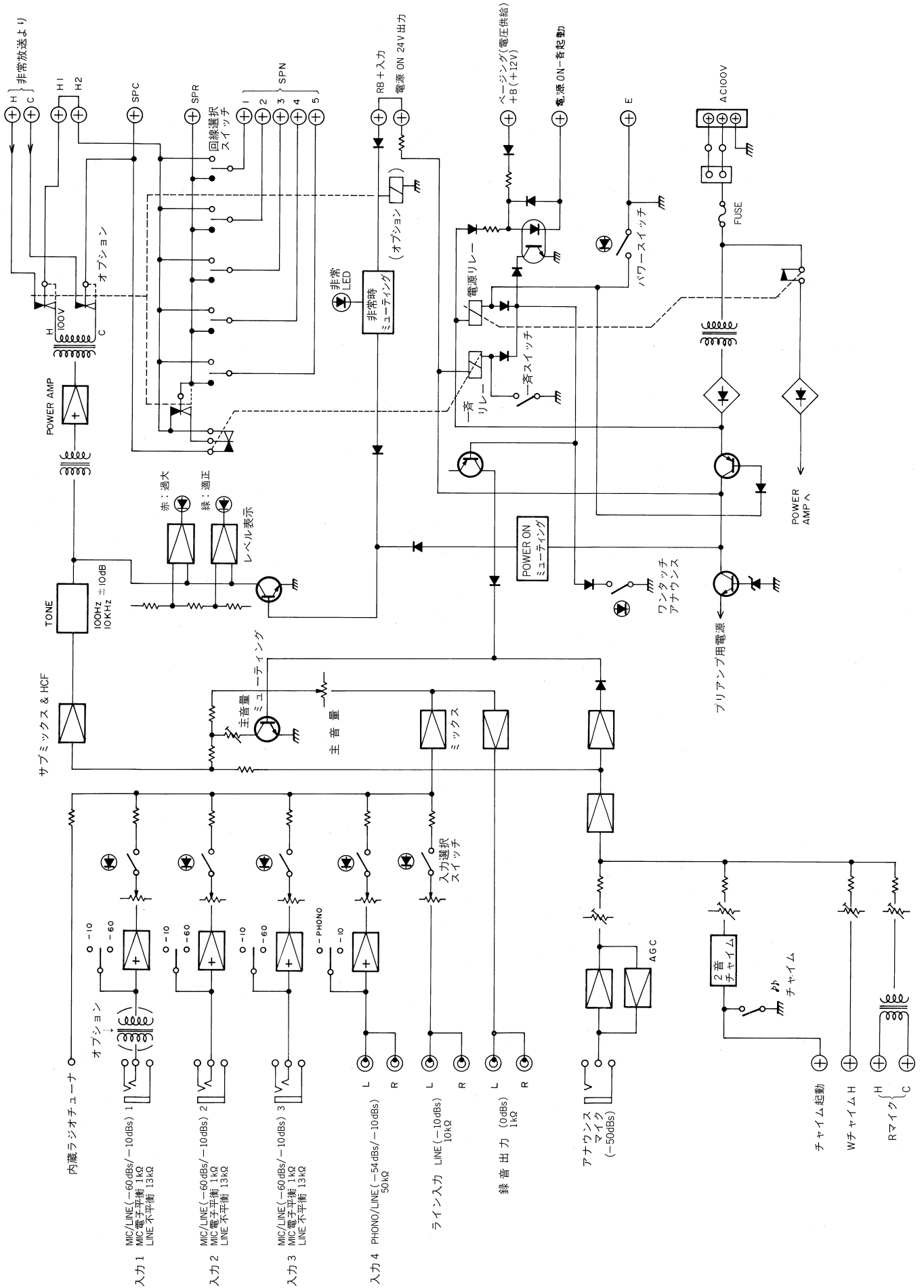
アナウンスマイク、ウエストミンスターチャイム、リモコンマイク、2音チャイムが入力1～4、ライン入りに優先します。

ラベルの貼付

添付のラベルを下図のように貼ってください。



ブロックダイアグラム



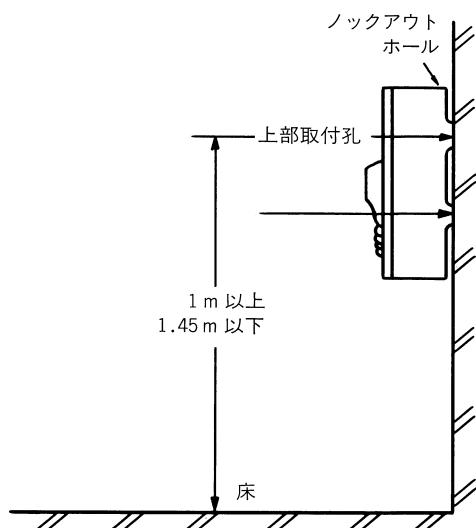
設置のしかた

本機および各種機器の接続は、必ず販売店に依頼してください。
また、工事の場合は、必ず電源スイッチを“切”にしてください。
ブレーカーがある場合はブレーカーも切ってください。

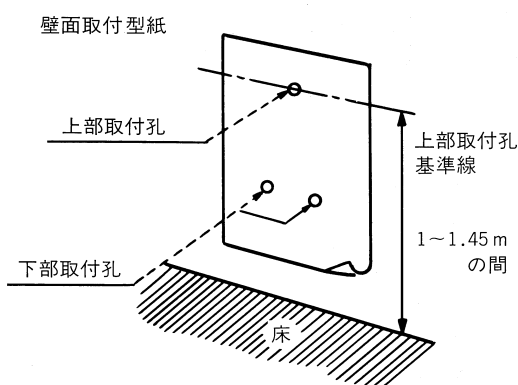
● 取付位置の決定と位置出し

1. 配置の高さは、下図のように決めます。

- ① 通線位置との調整を行います。
- ② 上部取付孔位置を床から1.0～1.45mの間にしめると、操作しやすい高さになります。



2. 位置出しは、下図のように添付の「壁面取付型紙」を壁面にあて、取付孔マークに先端の鋭い工具(センターポンチ、ドライバー等)で印を付けます。



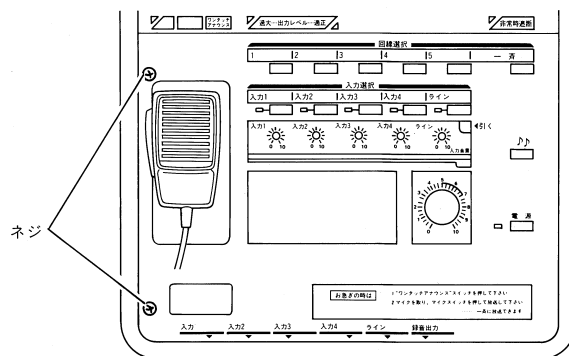
● 取付ボルトの壁面取付

強度のあるボルト(最大M8)を使用します。

- ・ PA-K30-08(80W) 6.7kg
- ・ PA-K30-16(160W) 7.8kg

● 本体の取付

1. 本体の前面のネジを2本はずし、操作パネルを開けます。



2. 本体背面の取付穴(3ヶ所)にボルトを入れ、ナットで止めます。

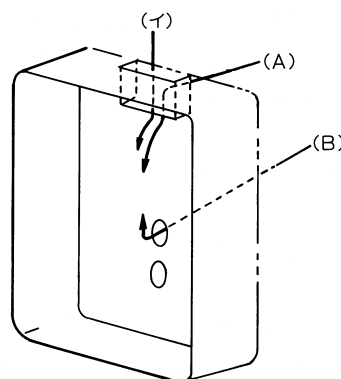
● 通線方法

● 通線が露出タイプの場合

- (イ) 本体上部のロックアウトホールから通線します。
通線孔の大きさは壁面から30mmで、幅が75mmです。

● 通線が埋込みタイプの場合

- (A) 本体上部の埋込用の通線孔から通線します。
- (B) 本体背面の通線孔から通線します。



内部の説明と接続のしかた

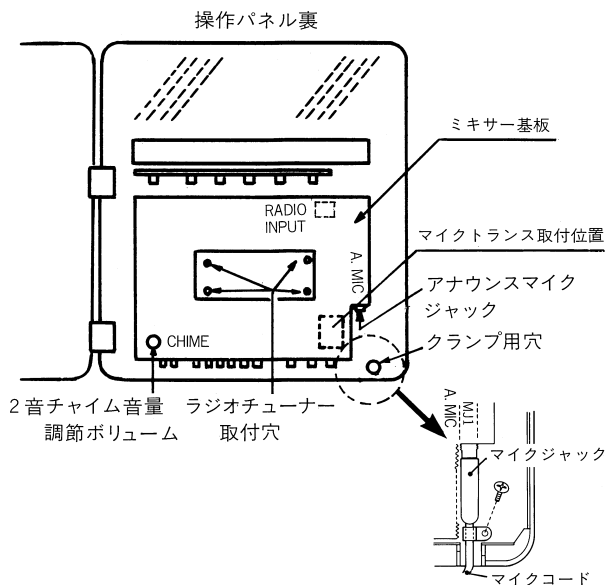
操作パネルを開いた状態で接続と調節を行います。

●アナウンスマイクの取付

アナウンスマイクは本体内部に添付されています。

下図のミキサー基板のA.MIC(MJ1)にアナウンスマイクのプラグを差込みます。添付のクランパーでアナウンスマイクが抜けないようにマイクコードをクランプしてクランプ用穴に固定します。

アナウンスマイク音量は、操作パネルを閉じた状態で調節できます。



●チャイムの音量調節

2音チャイムの音量は、操作パネルを開いた状態で行います。ミキサー基板のCHIMEボリュームをノブドライバーで調節します。

●ラジオチューナー(PA-F3 別売)の取付

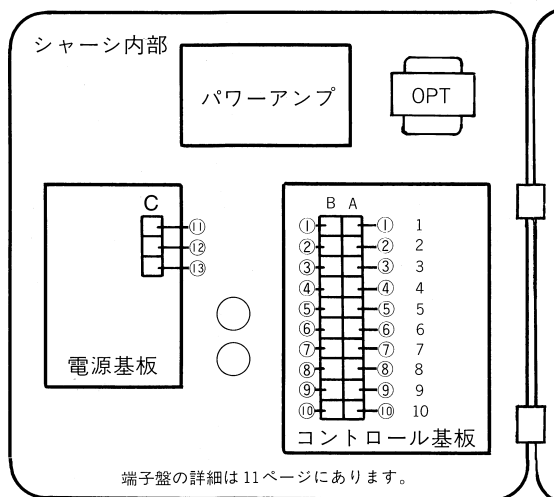
- ① ラジオチューナー取付穴についているブランクパネルの4本のネジをはずして取ります。
- ② この場所に①で取りはずしたM3ネジ4本でラジオチューナーを取付けます。
- ③ ラジオチューナーのコネクターをミキサー基板のRADIO INPUTコネクター-CN26に差込みます。
- ④ 操作パネルを閉じたとき、ワイヤをはさみ込まないためにラジオチューナーに付属しているワイヤクランプでワイヤを短くまとめます。
- ⑤ アンテナケーブルも操作パネルを閉じたとき、無理な力がかからないようにワイヤを整理して閉じます。

※ラジオチューナーの“取扱説明書”もご覧ください。

●マイクトランス(サービス部品)取付時の改造

マイク1～3は電子平衡の回路を採用していますので、平衡ケーブルで送られてくる信号にはノイズが入りにくいのですが、100m以上延長して使用する場合、マイク1に限りマイクトランスを使用できます。ミキサー基板をはずし、J73、J74をはずしてマイクトランス(サービス部品扱いQQR0013-001)を取付けます。

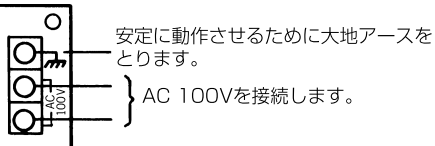
■接続端子盤の説明



AC100V電源の接続

本機に接続するAC100V電源の分電盤は、必ず切ってください。

端子盤からワイヤの芯線部分がはみ出さないよう接続します。



- | | | |
|----|-----------------------------|---|
| A側 | ① [SPR] | :3線式スピーカラインのSPR (SW) 出力です。一斉放送時に信号が出ます。 |
| | ② [SPC] | :スピーカラインのコールド側出力です。 |
| | ③ [H ₂ (スイッチ入力)] | :回線切換SW入力です。通常④のH ₁ とショートしておきます。 |
| | ④ [H ₁ (アンプ出力)] | :アンプ出力です。通常③のH ₂ とショートしておきます。 |
| | ⑤・⑥ [H, C (非専用スピーカ入力)] | :非常用放送機器のアンプ出力を接続します。(サービス部品のリレーが必要です。) |
| | ⑦ [E] | :アース。 |
| | ⑧ [W.チャイム/H] | :W.チャイム入力のホット側です。コールド側は⑦のアースへ接続します。 |
| | ⑨・⑩ [R・マイク/H, C] | :リモコンマイク入力です。ホットは“H”、コールドは“C”です。 |

- | | | |
|----|---------------|--|
| B側 | ①～⑤ | :5回線のスピーカラインのホット側 [スピーカ回線出力1～5 (SPN)] です。 |
| | ⑥ [RB ⊕ 入力] | :非常用放送機器と接続するとき使用します。 |
| | ⑦ [電源ON24V出力] | :本機の電源が“ON”すると、DC24Vが出力されます。外部機器に0.1Aまで供給できます。 |
| | ⑧ [ページング] | :電話用ページングのDC電源入力用。DC電源供給の場合に使用します。 |
| | ⑨ [電源ON一斉起動] | :この端子をA側⑦のEに接続すると、本機の電源が一斉にはいります。 |
| | ⑩ [チャイム起動] | :外部からチャイムを起動するとき使用します。 |

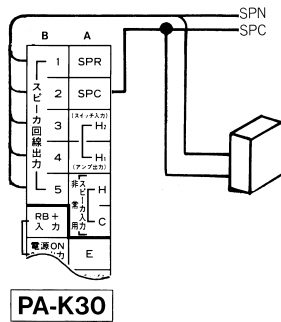
- | | | |
|----|-------------|-----------------------------------|
| C側 | ⑪ [GND] | :アース。本体を安定に動作させるため、必ず大地アースを接続します。 |
| | ⑫・⑬ [P1・P2] | :AC100Vを接続します。 |

内部の説明と接続のしかた(つづき)

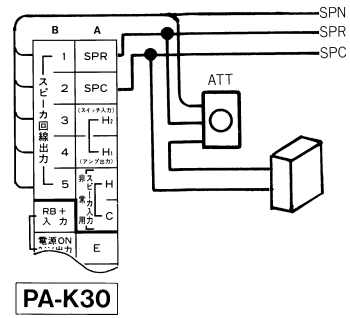
■スピーカ回線の接続

スピーカ出力の合計はアンプの定格出力を越えないようにします。(160W - 63Ω、80W - 125Ω)
1回線あたり接続できるスピーカの最大W数は100Wです。

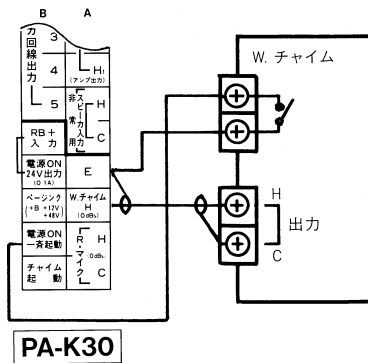
(1)2線の場合



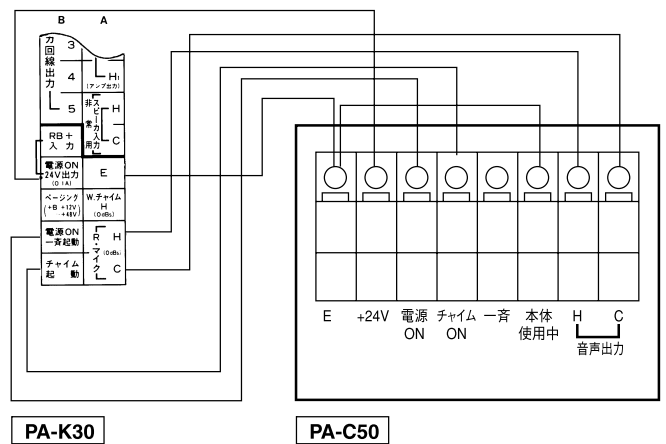
(2)3線式の場合



■W.チャイムの接続



■一斉式リモートマイクロホンの接続



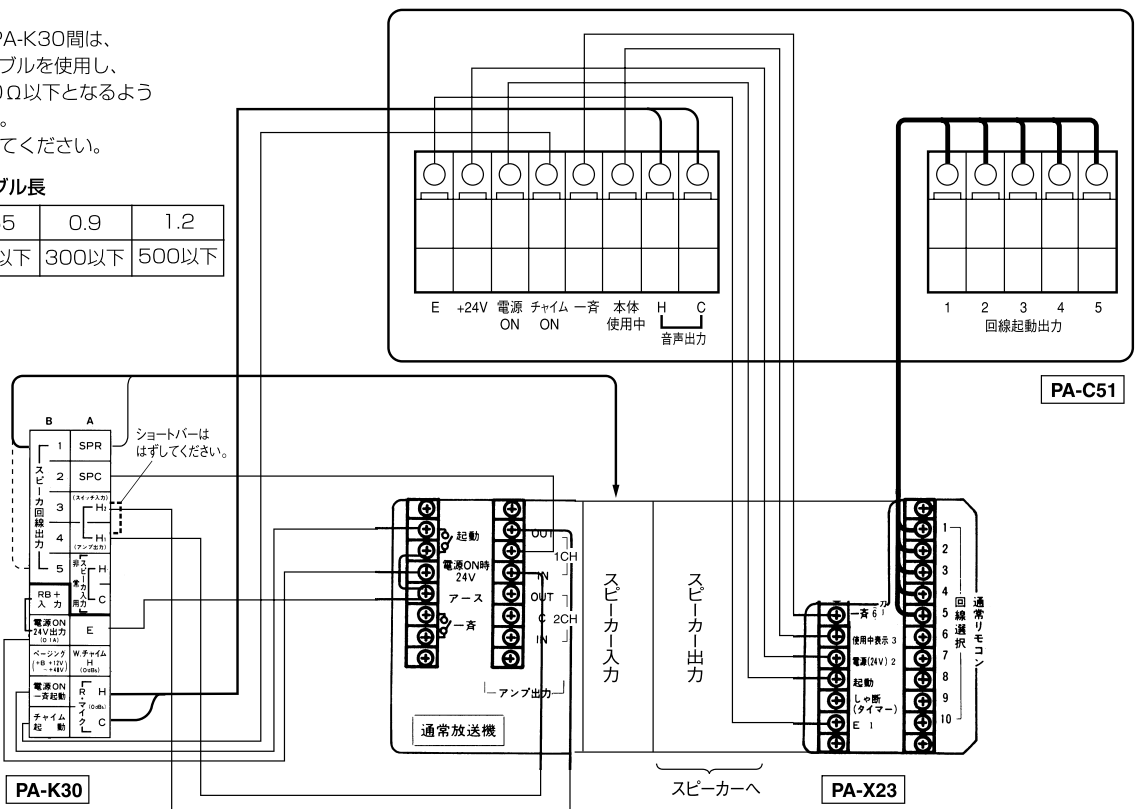
■5回線リモートマイクロホンの接続

スピーカ制御器 (PA-X23) が必要となります。

PA-C51~PA-X23,PA-K30間は、CPEV (対より) ケーブルを使用し、1線あたりの抵抗が10Ω以下となるように、接続してください。
音声線はペアで使用してください。

10Ω以下となるケーブル長

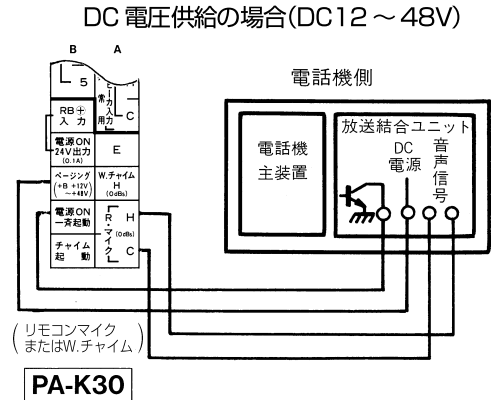
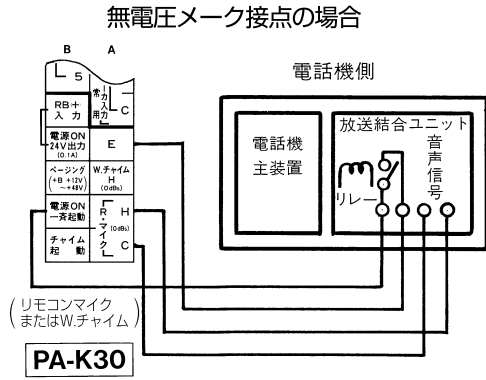
線径(mm)	0.65	0.9	1.2
ケーブル長(m)	150以下	300以下	500以下



■電話用ページングアンプとして使用する場合の接続

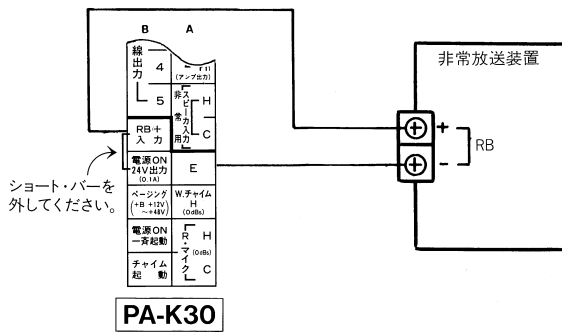
(1) 電話機からパワーアンプの制御と一斉放送ができます。

(2) 電話機側の制御信号が2種類あります。



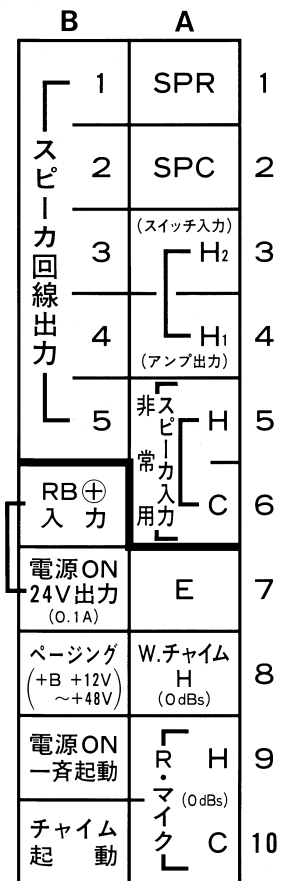
■非常用放送システムとの接続

(1) 非常放送装置からの起動信号により本体の放送を停止する放送



(2) その他非常用放送設備と併用して使用される場合
非常用放送設備の設置説明書をご参照ください。

接続端子盤図



仕様

※本機ならびに関連商品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。

	PA-K30-08	PA-K30-16		
定格出力	80W(125Ω)	160W(63Ω)		
周波数特性	100Hz～20kHz ±3dB(ライン入力定格出力-10dB時)			
全高調波歪率	1%以下(ライン入力定格出力1kHz時)			
残留雑音比	75dB以上(JIS-A)			
音質調整	低音：100Hz 高音：10kHz ±10dB以上			
ミューティングレベル	0dB～-30dB(入力1～4、ライン入力)			
スピーカ出力制御	5回線+一斉			
入力回路	入力1	} (マイク/ライン切換) : マイク - 60dBs 1kΩ ライン - 10dBs 13kΩ	電子平衡 標準ステレオジャック	
	入力2		不平衡 標準ステレオジャック	
	入力3			
	入力4(フォノ/ライン)	: フォノ(RIAA) - 54dBs 50kΩ	ピンジャック×2	
		ライン - 10dBs 50kΩ	ピンジャック×2	
	ライン入力	: - 10dBs 10kΩ	ピンジャック×2	
	ウエストミンスターチャイム	: - 10dBs 5kΩ	端子盤	
	リモコンマイク	: 0dBs 10kΩ	端子盤	
	アナウンスマイク	: - 50dBs AGC付	標準ジャック、マイク付	
ラジオチューナ入力	: - 20dBs 47kΩ 専用コネクタ			
出力回路	録音出力： 0dBs 1kΩ(入力1～4、ライン入力のみ)ピンジャック×2			
その他	チャイム： - 6dBs 2音式電子チャイム内蔵			
寸法	幅359mm×高さ428mm×奥行163mm(マイク含む)			
質量	6.7kg	7.8kg		
仕上	全金属性			
消費電力	60W(電気用品安全法)	110W(電気用品安全法)		
定格出力時消費電力	156W	292W		
組込可能ユニット	AM、FM ラジオチューナー			
付属品	アナウンスマイク			
添付物	取扱設置説明書.....	1	入出力端子ラベル.....	2
	保証書.....	1	ワンタッチプッシュ.....	1
			壁面取付型紙.....	1

保証とアフターサービスについて

保証書の記載内容のご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保障期間について

保障期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理致します。その他詳細は保証書をご覧ください。

●保障期間経過後の修理について

保障期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理致します。

●サービス窓口

- ・下記 URL をご覧ください。
<http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html>
- ・業務用修理窓口 (045-939-7320)

●サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度、各部の接続、つまみの位置についてお調べください。それでも具合が悪いときは、電源スイッチを切って次のことをお知らせください。

- 品名：ウォールシステムアンプ
- 型名：PA-K30-08またはPA-K30-16
- 故障の状態をできるだけ詳しく
- ご購入年月日
- ご住所・ご氏名・電話番号

商品の廃棄について

- この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適正に処理してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、省エネルギーのため電源スイッチを切ってください。

JVCケンウッド カスタマーサポートセンター

固定電話 0120-2727-87 携帯電話・PHS 0570-010-114 一部のIP電話など 045-450-8950 FAX 045-450-2308 〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12	ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
--	--

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム
〒221-0022
神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>